

## シリーズ 校長先生が若かったころ ⑥

### 週番制度って知っていますか

私が中学生だったころ『週番』という制度(役割)がありました。教師に成り立てのころもまだあったような気がしますが、いつのころか無くなってしまいました。

当時は土曜日も半日授業がありました。4限目が終われば12時を過ぎますから、それから掃除をして学級終礼をすれば、当然昼ぬきで午後1時ごろになるわけです。

ところが、その後に『週番』の引き継ぎというのがあるんです。腹が立つというより、腹が減ってめまいがしそうでした。

おそらく、保護者も大部分の方は経験が無いでしょうから『週番』について若干説明します。『週番』の任務は主に学校秩序の維持部隊と考えられます。そういう意味では生徒会組織とは根本的に存在意義が異なります。

各クラス1～2名の週番が輪番で組織されます。たいてい小学校では6年生、中学校では3年生の中から責任者が選任されます。確かこの人は「週番長」とかいう腕章を腕にまいていました。我々は陰で『番長』と呼びました。おっかねえ。

さて、この週番の人たちの役割ですが、土曜日の昼過ぎに空腹をかかえながら「来週の週番目標」というのを決めなければなりません。子分たちは腹が減って心ここにあらずで、とにかく何でもいいから早く決めてほしいのです。そこで『番長』がほとんど独断的に「廊下を走らない」とかいう目標を提示します。子分たちはみんな「そうだ、それがいい。」と一斉に連呼します。(ほとんど1年中この目標だったような気がしますが…)

さて週が明けて月曜日になりました。早朝から『番長』がクラスをまわって、見張りの分担区域を子分たちに指示するのです。「お前は便所の前の廊下！」

その週は何があっても休み時間ごとに便所の前の廊下に立つ運命なのです。もちろん、立つだけでは任務を全うしたことにはなりません。便所の前を走る人間をチェックするのです。おもしろいことに、ほとんどの週番(子分)は「走る犯罪者」を直接注意することはありません。なぜなら、2年生が3年生の先輩に注意するには相当な勇気と覚悟が必要だからです。そこで、基本的には子分達はチェックシートに犯罪者を記録して番長に提出するのです。番長はこの犯罪記録を見て、週の全校集会に犯罪者名を実名で発表するのです。

週番と先生の関係はというと、週担当の先生はいたように思いますが、週番目標達成のための手段や罰則についてはほとんど番長任せだったようです。ですから、集会の後で、3年生の犯罪者から便所の前の週番は誰だったかという追求があっても先生は助けてくれません。番長も週が過ぎればただの人でした。

いつのまにか学校秩序を守るこの制度が無くなってしまいました。誰ですか無くしたのは。

